

つくる責任 つかう責任

ここでは、SDGsの17のゴールのうち、12番目のゴール「つくる責任 つかう責任」について、大阪市の取り組みを紹介します。

大阪市は、プラスチックごみゼロをめざし、以下に掲げる具体的な行動を実施します。

- 庁舎・関連施設における使い捨てプラスチック使用削減及びプラスチックごみの適正処理の一層の推進
- 職員による使い捨てプラスチック使用削減及びプラスチックごみの適正処理の取り組みの徹底
- 環境イベント・ホームページ・チラシなどによる府民・市民への意識啓発
- 河川や海岸・道路・公園等の清掃活動の推進
- エコバッグを常に携帯する運動の推進(大阪エコバッグ運動)
- 地域・事業者との連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの構築(みんなで取り組むペットボトル循環プロジェクト)
- 国連環境計画 国際環境技術センター(UNEP-IETC)と連携し、プラスチック資源循環など環境分野における大阪市の取り組みを世界に発信
- 友好都市(上海市)と廃棄物分野の都市間協力による3R(発生抑制・再利用・再生利用)と適正処理の確保

2019年には、大阪府と大阪市は共同でプラスチックごみゼロに向け、使い捨てプラスチック削減のさらなる推進を行うことなどを盛り込んだ「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行いました。



おおさかプラスチックごみゼロ宣言

プラスチックは、安価で使いやすいことから、20世紀半ば以降、我が国においても急激に普及し、現在、私たちの生活は大きく依存したものとなっています。その一方、不用意にごみとして捨てられるプラスチックなどが、河川などを通じて海へ流れ込み、海洋環境や生物に深刻なダメージを与えていることが、近年、地球規模で問題となっており、細分化されたマイクロプラスチックによる生態系への影響も懸念されています。

2019年G20大阪サミット及び2025年大阪・関西万博の開催地として、SDGs(持続可能な開発目標)先進都市を目指す大阪は、プラスチックの資源循環を推進し、プラスチックごみによる河川や海洋の汚染の防止に率先して取り組み、国際社会に貢献していく必要があります。

このため、府民・市民や企業等と連携し、海洋プラスチック汚染の実態の正しい理解を深めるとともに、使い捨てプラスチックの削減や3R(リデュース、リユース、リサイクル)のさらなる推進、プラスチックごみのポイ捨ての防止、紙等のプラスチック代替品の活用など、プラスチックごみゼロに向け、自ら不断の取り組みを行うことをここに宣言します。

2019年1月28日 大阪府知事 **松井 一郎**
大阪市長 **吉村 洋文**

三島さん 異常気象です。年々、平均気温が上昇したり、大きな災害が発生したりして、数十年後には地球がどうなっているのか不安に感じます。しかし、関心を持っているだけで、実際には環境問題解決のための行動に移せていないのが現状です。

堀井さん やはり地球温暖化問題に最も関心を寄せています。ただでさえ多い温室効果ガスの発生量ですが、今後も世界では人口の増加が予想されており、途上国もどんどんと発展を続けています。では、この現在の便利で豊かな生活を放棄して、空調もPCも自動車もない生活をというわけにもいかないところに、この問題の難しさがあると思います。

杉村さん 地球温暖化による気候変動です。日本でも、降水量の増加や年々上がる一方の気温などからその影響は著しいと感じています。特に、四季を感じられることが魅力の一つでもあるはずのこの国で、春や秋ならではの過ごしやすさを体感し辛くなってきたことはとても残念ですし、なんとか食い止められないものかという思いです。

Q.4 皆さんが自分自身で環境のためにしていることや、していきたいと思っていることなどはありますか？

弓場さん 出来るだけ長く使える物を探して買うようにしています。一度きりで捨ててしまうのでは必要のない生産や廃棄につながってしまうように思うので、繰り返し使えるものやそうでない物でも出来るだけ丁寧に長く使うようにも心がけています。

三島さん レジ袋はなるべく購入しないようにしています。また、資源をリサイクルしている商品があると、それを選ぶようにしています。

坪井さん 長く使える良いものを、よく考えて買うように心がけています。大量生産、大量消費の生活は、生産する過程、ごみを処理する過程など、どこを取っても環境に良くないと思うので、むやみにものを買わずに、すぐ捨ててしまったりしないように気をつけています。

杉村さん 資源をなるべく無駄にしないよう心掛けて生活しています。電気や水の使用は最小限に留めたり、繰り返し使えるものを意識的に購入したりするといった比較的挑戦しやすいことばかりですが、そういった少しの行動を継続していくことは、環境問題への意識を緩めないことにも繋がると考えています。

田邊さん 日本では食糧が大量に廃棄されていると思うので、私は買ったものを無駄にすることがないように食べ切れる分だけ食べ物を買うことにしています。また、食べる時も残飯がでないように、最後まで美味しく食べられる調理を意識しています。

堀井さん 私が実際に行っていることとして、例えばエアコンの使用では、30分や1時間程度の外出では付けっぱなしにするようにしています。「付けっぱなし?もったいないくない?」と思うかもしれませんが、エアコンは起動時と部屋を冷やす際に電力を多く消費するため、短い時間の外出であれば付けっぱなしの方が、環境に良いのです。

山下さん ペットボトルをなるべく使わないように、タンブラーや水筒に水を入れて持ち歩くようにしています。少し前までは荷物になるなって思ってたんですけど、レジ袋有料化に伴って少し大きめのカバンで外に出るので今は気にならないです。それに、お金の節約にもなるし、水は身体にもいいし、いいことばかりになって思ってます。

プラスチック製買い物袋の有料化は、皆さんの普段の生活の中にいろいろな形で影響を及ぼしているようです。「自分の考え」をしっかりとっておられる皆さんに、とても魅力を感じました。また、皆さんは、いろいろな環境問題にも関心を持っておられ、「自分ができごと」に取り組んでおられます。大きなことだけでなく、「自分ができごと」を日々実践していくことはこの地球が「持続可能」となるためにはとても重要なことです。今回お話を聞いた皆さんのように「自分にできごと」を実行していく人が一人でも増えてほしいです。

